京都府戦略的地震防災対策推進部会　結果要旨
（京都府防災会議専門部会）

１　開催日時
平成２５年6月２４日（月）　午後２時００分～３時３０分

２　場　　所
京都府職員福利厚生センター３階第１会議室

３　出席委員
林委員、吹田委員、牧委員

４　結果概要

（１）平成２４年度進捗状況について

○ ２４年度までの進捗状況について、ソフト事業の定着化も完了と同視できるという評価基準を確立したこともあり、全体の約６割の事業が「完了・定着化」していると認められ、順調に事業が進められてきていると評価できる。

○ ただ、「定着化」とされている項目については、数値目標を持つハード事業のように後退しないわけではないので、引き続き点検をし、この状態を維持向上できるように努められたい。

○ また、ソフト事業等についての効果を検証するようなことも考えてみてはどうか。例えば昨年の京都府南部の豪雨等、実際の災害について、うまく機能していたか検証してみる、というのも一つの手法である。その際、個別の事業で検証するのではなく、1-1-1、1-1-2 等の施策項目ごとに検証するのが良い。

○ 「検討」「未着手」となっていた事業についても減少しており、望ましい方向にあるものの、一部の事業については依然「検討」のままとなっている。当初の目標設定の仕方が適切でなく、取組がしにくいという可能性があるため、ゴールそのものも含めて再度点検をして取組を進められたい。

○ 「検討」の一つであるメンタルケアに関する事業について、メンタルケアには①緊急期 ②応急期 ③復興期の３つの段階があり、それぞれについて違った対応が必要となる。各段階で何が出来るのかを検討してみてはどうか。

（２）今後の取組について

○ 戦略的地震防災対策指針は平成３０年度までを計画期間としているが、南海トラフの発生が目前に迫っている今、この次の１０箇年計画が南海トラフ地震への対策という意味では最後の１０年というつもりで準備していく必要がある。

○ 現在の計画の柱となっている 7 つの政策については大きく変更しなければならないような情勢変化はないが、プランの各事業の詳細については、必要に応じ現在のアウトプット評価からアウトカム評価が出来るような内容にすることも含め、点検していく必要がある。

○アウトカムの指標として、例えば

① 花折断層などの直下型地震に対応できるレベル
② 南海トラフ巨大地震に対応できるレベル
③ 東南海・南海地震（２連動）に対応できるレベル
④ ①～③以下のレベル

のどこに当てはまるのかを考えていく等の手法も考えられる。